

第3回 学校2学期制検討委員会 記録

H23. 3. 18 15:00～

小田原合同庁舎 2G

1 議題

(1) 学校2学期制に関する実態把握の結果について
報告；調査部会より（島津委員）

質問

委員長；アンケート結果について質問はありますか。

小宮；P8のHの中学生向けの質問項目は夏休み明けの定期テストと2学期制とどのような関連があるのか。

大輪；行事計画上、夏休み明けに定期テストが位置付けられたため。休みを継続的に使えたかどうかという意味合いである。

小宮；中学校では、夏休み明けの定期テストというのは、2学期制になってからですか。

大輪；そうです。

井上；全員に保護者にアンケート結果を配布してほしい。検討をお願いします。

委員長；事務局として、アンケート結果は出す予定であるか。全保護者へ。

西村；調査部会としてはアンケート結果は学校に戻す考えがある。ご意見があるというのではあれば、内容全てを出すということは、紙面上の問題もあり、ある程度精査する必要がある。

井上；保護者の立場でアンケート回答した人としていない人検討されていることを知らない人もいるので、検討をしているということ自体、総会などで伝えているが、実際に個人の考えとどう違っているのか、ある程度保護者も知りたいと思うはずです。これは、ズバリのアンケートでありますので、学校に全て任せるということになると、バラバラになるので、できれば保護者に届くようにしていただきたい。

西村；一つの例としてホームページに掲載では。

井上；全員がパソコンを持っているわけではないので、アナログになってしまうが、できれば、紙でいただきたい。

西村；内容としては、データがまず必要であり、その上、それぞれの項目のA～Hまでとアンケートの自由記述についてある。多い自由記述を記載しているが、すべてをいうわけではないが、できるだけコンパクトにした形で。

井上；大まかにまとめたものであると注意書きを書いてもらえればよい。

西村；全体的には、アンケートすべてということですか。内容として、まずアンケート実施の目的、そして、A～Hの項目、自由記述の意見のすべてをできるだけコンパクトにするのでA3表裏にまとめる。予算上、できる範囲でまとめる。まとめる際、恣意的になっ

てはいけない。

井上；例えば、予算的に難しければダイジェスト版で細かくはホームページ上にするとか。

西村；検討させていただき、連絡する。細かい部分はホームページで見てください。

小宮；初めて結果を見ると、かなり2学期制について、学校で取り組んでいることなどが、肯定的な結果であると感じる。定着度はかなり高い。夏休みのところでは、通知表が2回になってしまうということに保護者に不安なところであったが、それに対して夏休みに入ってから教育相談の強化をしようとするこの学校も取り組んでいる。関連する項目では、Cは、保護者がかなり評価している。小学校では夏休みの教育相談強化。以前からやっていたが、それ以上に取り組んでおり、それをかなり評価されている。

井上；小学校レベルでは、批判が少ないが、中学校では批判的かなと思っていたが、これを見るとそうでもないという感じている人が多いということ、現実の資料として、伝えていくべきである。

小宮；Bの数値、教職員、悪い要因と考えられる。保護者は肯定的であるが、教員の方が少ないということについては、2学期制の問題ではなくて、防犯上の問題であり、放課後子どもを残せない、休み時間を大切に思っている、学習面の保障も大事であり、子どもの対応をしている。

委員長；アンケート結果をどう戻すかという件と関連して、各項目の下にある調査部会の吹き出しを見てもらっているが、検討委員会としての考察を示していきたい。

小宮；Aで小学校と中学校の教員の感じ方が違いについてももう少し説明を。高校入試のことが影響が多いと説明があったが。

大輪；成績を出す出さないが影響している。2学期制になって確実に成績を出さなくても構わないが、継続性も考えて、夏休み前にしっかり課題を持たせることが大切である。おのずと長期休業前に成績に替わるものを出さなければならない。前と変わらない状況がある。夏休みの課題を与えるためには必要なことであり、今まで以上にむしろやっている。

小宮；小学校は7月までの学習の結果を長期休業前に2学期制になる前からやっているし、今もやっている。長期休業は以前からあったわけなので。

大輪；長期休業前には面談をやらなければならない資料作りをしなければならない。具体的に数字が出るかでないかは大きな違いはある。休み明けに定期テストもあり、資料作りの時間も費やさなければならない。より良い2学期制のために意識を教職員は変えて取り組んできている。

杉山；大輪副委員長に付け加えて、5年間で進化させている。いかに2学期制をなじませていくために、少しでも生徒と話ができたり、部活に専念できたり、そういうことをやっというところと取り組んだ。しかし、次の高等学校のことを考えると、進学があり、保護者も要求してくる数字を出していこうではないかという、そこにジレンマはあるけれど、長期休業前に成績に替わるものを出そうとしたり、頑張っている。いい点悪い点を感じながら、2学期制が進んでいるのだから、頑張っていこうとしている。ただし、サマースクールなど

を考えていくとエアコンなどの環境面の問題もあるが、精神的な部分は頑張って取り組んできている。

小松；中学校3年生の評価、7月10月初旬、12月初旬、3月の4回出している。2学期制ならば7月に出す必要ないが、保護者の納得が得られない。学校としても夏休みを有効に使うために、7月に出す必要を感じ、さすが、大変なことである。夏休み明けも作品処理も併せて大変である。9月はめまぐるしく忙しく、子どもと触れ合いながらというところは今はでき肉現状がある。

小宮；3年生に関することが多いのか。

小松；数字が出なくても1,2年生も観点ごとにやっている。

小宮；3年生は特に詳しい評価をしているのか。

小松；進路の関係があるので、12月にも出さないといけない状況である。

高田；市内中学校、夏休前成績を出している。他市町では、出していないところもある。現在出しているものを出さなくしていくことは保護者の納得を得られないでしょう。そこを改善して2学期制は難しい。自由記述欄、△の項目が多いが、多くが進路指導、成績関係である。その部分を除いて、2学期制にメリットというのが○が多くあるのであれば、成績の部分をクリアしていけば、2学期制の良さを追求していくのもよいが、今は、なれるというか、生かせるという形で学校づくりしつつ、成績のことがジレンマとしてあり、中学校の方が2学期制でよかったというところがあるのか。○が少なく、2学期制の良さというのはあるのか。

杉山；メリットとして、部活に集中できる。夏休前に生徒と先生が一体となって、6月の終わりから7月にかけて。3学期制であると7月になるとどうしても成績で動かざるを得ない。どうしても生徒と離れてしまう。3学期制よりも2学期制の方がメリットがある。夏休みまでの評価は出しているけれど3学期制の通知表より簡単なものであり、そういう面では部活に集中できるといった良さがある。

高田；進路と成績表の出し方が改善されれば中学校でも2学期制がよいとなるのでしょうけれど、進路と成績表の改善が難しいのでは。

杉山；3年生は両面を持って大変である。受験も大事、部活も最後で大事。保護者は成績表のこともあるけど部活の最後を思いっきりやらせたいという思いも。

井上；市P連で意見交換の中では、2学期制のメリット・デメリットがわからないから保護者としてわからないという意見が大半であった。要望としては、2学期制にした場合では、こういうメリットがあるとか、現状では、こういうデメリットがあるなどを知りたい。教員の負担がどうなのか、子どもたちにとってどうなのか、具体的なことが欲しい。

杉山；このアンケート結果はしっかり児童生徒教員保護者の考えがよく表れている。これが小田原の現状がきちんと出ている。このアンケートは大事にしたい。

小松；P6Eの項目は中学校教員が肯定60%というのは少ないと考える。実際には夏休み、中学校の教員は部活もやっているし個別に生徒をよんで補習するなどすごくやってい

ると思う。毎日学校にきて生徒をよんで学習を教え、とてもよく取り組んでいるのに、中学校の教員は自己評価が低い。教員は思ったようにやれていないと思われる。

委員長；中学校の入試や成績の部分の考えが多かったが、小学校の方にもメリットが出てくると思いますが、小学校の方、どうですか。

小宮；どの学校も夏休みの面談は内容を意識している。行事も精選を行ってきた。行事が長期休業前でも取り入れられるようになった。夏休み前や冬休み前も落ち着いて授業ができるようになった。時数が確保できている。これは数値ではあらわれないものであるが。

島津；夏休み中のサマースクール、いろいろな取り組みが増えている。サマースクールも教科の補充だけでなく、いろいろな講座などを地域の方にお問い合わせなどしながら取り組んでいる。教科の学習も休み前に充実してきている。猛暑であったが、休業前に6時間の授業ができている。クーラーが入った図書室をうまく活用している。

高橋；小学校で多くが2学期制の方がよさそうである。アンケートの中でも具体的なメリットがあるように感じる。が、中学校の教員、自由記述47%ということはやはり感じていることがあることがうかがえる。

田代；7月、12月に成績処理がなくなり、授業にゆっくり取り組めるようになったことが一番大きい。休業直前まで5、6時間の授業を組むことができ、子どもとの関わりの中でも+になっている。サマースクール中で、授業の中のことを補充をしていったり自由研究等課題を持ってやることを休み前に相談に乗り、途中その取り組みについて継続的に見てあげることができるといったメリットがある。時間数が増えていることから時数を生み出すためには、3学期制では、7時間授業を組まないとやっていけない。落ち着いて授業を取り組むことがしいては学力向上につながる。中学校もやりにくい中でも2学期制に順応しているようであり大変そうである。子どものゆとりを十分保障してあげることが大切。5年間の実績は大切にしていきたい。

高田；2学期制で小学校が授業時数は実際にどのくらい増加したのか。平塚などは今日が卒業式となっている。3日早く行うことができている。小田原はかなり上乗せして行っているのかと思うが。

事務局；3学期制の時と比べて、平成20年度は小学校14.7h、中学校17.2h、22年度は小学校30.5h、中学校25.1h、来年度以降は、小学校30.6h、中学校41.8h増えている。

高田；最低から

事務局；学校が授業時数として生み出すことができたところ、総時間となる。

委員長；市P連では小学校は3学期制、中学校は2学期制といった意見もあったが。個人として。

井上；市P連会長、個々の考え、小学校と中学校で学期制、違ってもよいのでは。他市の2学期制から3学期制に戻した理由が何かわかるか？変わった理由は授業時数が足りなくて学力が低下したから、学期制の見直しということで変わったのか。

補佐；新聞、ホームページの情報しかない中だが、保護者や地域の意見も聞いて行政主導でスパッと変更してしまった自治体もあるが、学校現場では、大変な困難をしているはず。それは記事にはならない。風土的に保護者は3学期制しか経験していない中、2学期制にするのであるのならば入試制度も変えてください。新年度が9月から始まるのであればいいでしょうとか、いろんな意見があるが、現実に入試制度は変わらないし、そのあたりのジレンマが杉山委員の言っている通りである。しかし、小田原では5年を経過しているところで一度検討していきましょうといったスタンスでいくことが大切。高等学校などは校長が決めてよいとなっているのでせつかく2学期制が定着してきたけど3学期制に戻つつある学校がいくつも出てきている中、小学校と中学校の学期制が違うことも一つの考えとしてある。しかし、保護者は同じですので、批判があるが、高等学校がまた違っていることもある。

事務局；他市の状況で学力低下が要因というのではない。例としては、風土的にどうなのか、といったことを踏まえ、保護者に2学期制か、3学期制かのアンケートをとり、結果多い方に決定した自治体もある。他には、やってみたのだけれども3学期制でも授業時数を確保できると踏んで戻している自治体もある。また、幼小中と考えていったときに幼稚園と違うと言うことはどうなのかといった視点で見直していった結果的には3学期制に戻したという自治体もある。

高田；小中で学期を別にしているのが、3つの自治体だけ。藤沢と県内は3カ所。2学期制を考えていくところ、小学校では混乱を招くので3学期制のままでいこうということで、中学校は2学期制にかわってきた。

委員長；自由なご意見の中で、みなさんの意見から大体の方向性は見えたが、今後様々な材料を集めて検討していきたい。

西村；少し参考に見ていただきたい項目がある。3pの教員と子どものかかわる時間と過去のアンケートの7番と見ると関連性がある。教員の所をよく見ていただきたいが、ほぼ小中変わらず、今年アンケートとはほぼ変わっていないが、保護者についてはかかわる時間は極端にあがってきている。授業についても、8pと過去のアンケートを比べると、授業の充実などお認めいただいていることが見える。

委員長；島津委員が言っていた通り、2学期制をやっているわけで、それに沿うように学校は努力をしてくれている。その結果が今でているのであろう。

(2) 今後の検討の進め方について

委員長；平成23年度は5回の検討委員会を計画している。第4回～第8回をどのように進めるのが望ましいか意見を第8回は答申をまとめる。4回以降の計画していく。

井上；おおむね定着しているというこの資料がしっかりあるので、この資料をまず提示して保護者に考えてもらった方がよいと思う。わかってもらいたいと思った。定着している現状の認識を保護者がわかった上で2学期制について検討しているということがわかった方がよい。その方が市P連でも話しやすい。こういう状態であることをまず感じ取って

もらいたい。

田中；現状、小学校の方がサマースクールとか 3 学期制になかったことをやっていただいている。中学校でもよくやっていただいて満足している。変わることが不安だった。4 年生がいるので。

委員長；事務局に聞きたい。第 4 回以降具体的な方策をどうするか検討してよいか。

高田；小学校 2 学期制、中学校 3 学期制というようなことも検討することも可能なのか。

西村；それも含めて出していただいたものをもとに定例会で協議する。

委員長；検討委員会の中ではそれぞれの立場で最終的に 2 学期制、3 学期制といった形で出していければ。

高田；一定の答申を出したら、保護者に一度おろして。そこで意見をもらって、また集約してといった形もあるが。

高橋；2 学期制検討委員会として検討する場ならば、このアンケートで実態がだいたい把握できている。まず、このアンケート結果を保護者に伝え、再度投げかけ、意見を集約することがよいのではないか。

庵原；これまでの印象、小学校は 2 学期制をいかによりよく、中学校は実質 4 学期制の状態。アンケートは実質、2 学期制が定着しているかという視点は 2 学期制賛成、反対ではない。慣れましたか、理解はされましたかということを知っている。B が改善されていないのは重要。2 学期制で大事にしていくことが改善されていないことはせっかく 2 学期制にしたのに、学校には 2 学期制のメリットができない状況にあるのか、ということが見えてくる。D の学習の連続性について実際には学習の連続性と言った言葉を現場の先生は勘違いされているのではないだろうか、つまり評価期間が伸びたと捉えている人もいないだろうか。本当は子どもの思いや願いを大切にしながら大単元を組んで問題解決学習を進めていこう、長いスパンを組んでいこうということである。このアンケートの結果によって定着は賛成、反対ではない。

田代；アンケート結果を返してもう一度聞くことは大切かと思うが、うちは指定校だったとき小中の兄弟が 2 学期制と 3 学期制に分かれると困るという意見があった。

杉山；アンケートを大切に保護者にこの結果の良さを生かしてもらえるようにしないと、ひっくりかえるようなことならやめた方がよい。次に生きるような意味合いで返すとする。結論は出てはいないが、ある程度の方向性は出ている。YES, NO は今後検討していくことによってでてくるであろう。そのためには一度かえしてみる。戻したことが揺れるのかどうかをチェックしてみる。

和田；この流れは、このアンケート結果は今後の方向性を示すものとして大きな意味がある。中学校での問題はあつたわけであるが、そういうことも含めてここで出た方向性は重視しながら、課題となる部分とどう縮めていきながらと思う。

小松；この結果を保護者に返すといったときに A 3 の紙ベースで理解は得られない。説明する場が必要ではないか。学校で P T A 総会や懇談会などで説明する場が必要かと思う。

なぜ2学期制と3学期制が問題になっているのか。返し方について検討する必要がある。島津；他の委員と重複する。このアンケートの結果を戻していきたい。2学期制のメリットがわからない方が多いということなのでその部分も含めたアンケートの結果をどのようにかえすのか、学校ごとに違わないようしていきたい。

井上；事務局に学力とか要因にないと確認した。風土、行政主導で変わってきている。どこをもって検討するかを決めた方がよい。子どもの学力向上にいかになるか、大人としての人間力として成長できるか、絞っていきたい。そのために2学期制がよいのか考えていきたい。アンケートを有効に使いたい。風土でとなると全く違ってくるので、委員の共通認識として、風土に着目するのか、それとも何に視点、着目するのかを委員としてしっかり分けておかないといけないのではないか。

大輪；2学期制ありきでスタートしている。白山中施行校、入試選抜を考えたときに白山中学校がモルモットにならないように、より以上に丁寧に取り組んだことが現在、市内の形につながった。議論されて導入されたとは思っていないが生かす方向で学校は取り組んできている。風土でひっくりかえってはいけない。再度アンケートになってはいけない。メリットの部分をしっかり伝えていきながらアンケートをかえしていきたい。8回目までは計画であってある程度考えが煮詰まったらその時点で結論としてもよいと思う。5年かけてやっとこの状況になっているのだから、やっぱり戻すときも5年くらいかけてやるべきな気持ちでないと皆さんの理解を得られない。あまり焦らない形で方向性を出していきたい。横浜では校長に裁量権があるが、小田原は発達の段階に応じてということで連携を図っていくならば、やっぱり中学校は大変であっても2という線を出したらその2を追究すべきであると考え。小田原ではやはり小中はそろっていた方がよいと考える。

小宮；基本的にはそれぞれの立場の意見をよく聞いて進めることが大切。2学期制導入にあたってはその辺が十分理解得られたかどうか、行政としては手順を踏んで行ってきたようであるが、感覚としてどうだったのかということも聞いているので、これからのこともしっかり意見を聞くべき。市P連でメリット、デメリットがわからないという意見があったので、5年やってきた中ではっきり出てきていることもあるので、そこを示していかないと議論できないと思う。

事務局；2学期制のあり方について検討していく。よりよい2学期制なのか、新たな3学期制なのか、子どもにとってどうなのか、親、先生、それぞれの立場からどうなのかを議論していくことが大切。アンケートを返すことについては検討していく。

井上；風土を入れるかどうか、区切りがいい方が子どもにはいい。風土よりも子どもにとってより良いものという視点で限られた時間の中で風土を除外して考えたのか、踏まえた上で議論したといくのか、風土の視点を入れるのか検討してもらいたい。

杉山；調査委員会としては、風土も入っている。小田原では民主的に皆さんの意見を聞きますということで行っている。ひとり一人の立場を尊重しながら意見を出しませうとしてきた。民主的な立場で少数の意見も尊重した上で提示している。資料の結果を今出して

いるのだからそれに基づいて考えてもらえればよいと思う。そのように説明していけば十分である。アンケートの結果は大事にしていきたい。

庵原；風土ってなんですか。

井上；季節もあれば、しつけ、習慣、心の育ち。

杉山；小田原で培ったよさ、積み上げられてきた人間づくりの心

委員長；事務局と委員長副委員長で検討し、次回に望みたい。4回目の議案は皆さんにでき次第報告します。

議事終了。